

頭脳派ペア判断力で勝負



勝てば日本一という大一番の最終局で、役満の国士無双のテンパイなどをかいくぐり、高知工科大（香美市）の大学院生藤田竜貴さん（23）が高得点の混一色・七対子を見事に上がりきった。

藤田さんは同じ工学研究

科（基盤工学専攻）の近藤直季さん（23）とペアを組み、昨年11月、雀旗争奪学生麻雀選手権（学生麻雀連盟主催）で優勝した。2人は大学公認部活動の麻雀研究会所属。活動は週2回で夜遅くまで対局を繰り返す。月に1度は高知市

内の雀荘で「飲まない、吸わない、賭けない」の健康マージャンで主に高齢者の愛好家と打つ。学業では高度プログラミング研究室に所属し、マージャンやパズルなどのコンピュータゲームのプレイヤーの開発を研究している。

ペアを組むきっかけは昨夏の四国麻雀選手権だ。近藤さんが大会を制し、雀旗大会への出場権を手にした。ペアの相手を優勝者が選ぶことができる。近藤さんは「強い」と一目置いていた藤田さんを指名した。

東京であった雀旗大会には予選を突破した18ペア36人が出場した。4ペアで争う決勝は、「半荘」と呼ばれる4人による対戦をペアの1人ずつ2回続け、2人の合計得点で競う。

最初の半荘では近藤さんがトップに。後半の半荘も藤田さんがトップを維持し

たまま最終局へ。ライバルが高得点の役をテンパイし、結果次第で3ペアに優勝の可能性があった厳しい局面を制した。「自分の判断を信じて良かった」と藤田さん。研究会としてこの大会の初優勝を手にした。

マージャンの魅力について、藤田さんは「場面ごと判断力が試される」。近藤さんは「運の要素が強いゲームと思っていたが、相手の牌を読むなど実力が問われる奥深さがある」。顧問によると、藤田さんが最新の戦術を取り入れることに積極的で、近藤さんが比較的オーソドックスな打ち方という。

2人は個人戦となる10日の学生麻雀日本一決定戦に参戦し、ともに学生チャンピオンを目指す。互いを知る2人が勝負する場面があるかもしれない。

優勝メダルなどを手にする麻雀研究会の藤田さん（左）と近藤さん＝香美市土佐山田町



優勝メダルなどを手にする麻雀研究会の藤田さん（左）と近藤さん＝香美市土佐山田町

藤田 竜貴さん
近藤 直季さん

学生麻雀日本一の高知工科大院生